

平成 30 年度

(平成 30 年 4 月～令和元年 5 月)

自己点検評価書

比治山大学短期大学部



HIJIYAMA

目 次

【基準 1 使命・目的等】

使命・目的及び教育目的の設定.....	1
使命・目的及び教育目的の反映.....	2

【基準 2 学生】

学生の受入れ	3
学修支援	5
キャリア支援	6
学修環境の整備	7
学生の意見・要望への対応.....	8

【基準 3 教育課程】

単位認定、卒業認定、修了認定.....	9
教育課程及び教授方法.....	10
学修成果の点検・評価.....	13

【基準 4 教員・職員】

教学マネジメントの機能性.....	17
教員の配置・職能開発等.....	18
職員の研修	19
研究支援	20

【基準5 経営・管理と財務】

経営の規律と誠実性.....	21
理事会の機能	21
管理運営の円滑化と相互チェック.....	22
財務基盤と収支	23
会計	23

【基準6 内部質保証】

内部質保証の組織体制.....	24
内部質保証のための自己点検・評価.....	25
内部質保証の機能性.....	26

【独自基準】

比治山大学・比治山大学短期大学部中期計画（平成28年度から平成33年度） に基づく平成30年度事業計画進捗状況.....	27
---	----

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準1. 使命・目的等

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 1-1 使命・目的及 び教育目的 の設定	<視点> 1-1-③個性・特色の明示 (留意点) <input type="checkbox"/> 使命・目的及び教育目的に 大学の個性・特色を反映し、 明示しているか。	・「建学の精神」及び大学の教育目的を学則等に明文化している。また、平成30年度に中期計画の見直しを行う中で、大学のビジョンを「学生が主体的・能動的に学び、学内外から卓越した教育機関として評価される短期教育拠点となる」と、よりわかりやすく変更して明示した。	なし	なし	・比治山大学・比治山大学短期大学部 中期計画(平成28年度から平成33年度)(運営戦略本部会議資料、平成30年11月20日) ・ホームページ>大学案内>比治山大学短期大学部のミッションとビジョン https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/20160829_vision_mission_TANDAI.pdf ・比治山大学短期大学部学則
	<視点> 1-1-④変化への対応 (留意点) <input type="checkbox"/> 社会情勢などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育目的の見直しなどを行っているか。	・中期計画の3年目にあたり、本学の教育の質保証を再確認し、それに即してビジョンを見直すとともに、それを具現する教育・研究・基盤整備等についての個別ビジョンを簡潔に表した。	なし	なし	・比治山大学・比治山大学短期大学部 中期計画(平成28年度から平成33年度)(運営戦略本部会議資料、平成30年11月20日) ・ホームページ>大学案内>比治山大学短期大学部のミッションとビジョン https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/20160829_vision_mission_TANDAI.pdf

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準1. 使命・目的等

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 1-2 使命・目的及 び教育目的 の反映	<p><視点> 1-2-③中長期的な計画への 反映</p> <p>(留意点) 使命・目的及び教育目的を中 長期的な計画に反映させてい るか。</p>	<p>・建学の精神及び短期大学部の教育目的に基づいて中長計画(平成28(2016)年度～平成33(2021)年度)を策定している。 ・中期計画は年度ごとに事業計画で示し、事業報告書で進捗状況をまとめている。 ・平成30(2018)年度で中期計画の中間期を迎え、戦略や事業について一部見直しを行った。</p>	なし	なし	<p>・中期計画(平成28年度から平成33年度) ・平成30年度事業計画 ・平成29年度事業報告</p>
	<p><視点> 1-2-④三つのポリシーへの反 映</p> <p>(留意点) □使命・目的及び教育目的を 三つのポリシーに反映させて いるか。</p>	<p>・建学の精神・理念と短期大学部の教育目的を反映させ、平成31年度に向け、新たな三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー)を策定した。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-1 学生の受入れ	<p><視点> 2-1-②アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れの実施とその検証</p> <p>(留意点) □アドミッション・ポリシーに沿って、入学受入れなどを公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用しその検証を行っているか。</p>	<p>・各入試において適切な体制の下に実施した。 ・AO入試では入学受入れ方針(アドミッション・ポリシー)を具現化させ受験生の適性を評価できる内容で実施した。また推薦入試では、面接試験や適性試験等を実施した。すべての入学試験について、中立・公正に実施できるよう努め、適正に評価できる合格者判定資料等を作成した。</p>	<p>・スカラシップ入試について、目的にあった判定基準が明確にされていない。 ・入試の基本事項(入学試験実施マニュアル)を含め、緊急時の迅速な対応ができるマニュアルを再整備する必要がある。 ・H30.12の課題である大学入学受入れ改革に基づいた試験内容の見直しも継続課題である。</p>	<p>・スカラシップ入試の判定基準の目安を定め、合格者判定委員長へ提案する予定である。また、スカラシップの目的に沿った改善案を入試改革ワーキンググループと共に再構築するよう準備中である。 ・入試の基本事項(入学試験実施マニュアル)を基に実施したH31年度入試の反省を踏まえ、入試の基本事項の内容を再検討し改善する。 ・再整備した入試実施当日の緊急対応のマニュアルを基に、迅速な対応を図る。 ・入学受入れ改革ワーキンググループを中心に、アドミッション・ポリシーに沿った各入学試験の判定方法の検証のもと、大学入学受入れ改革に基づいた試験内容の見直しに次年度以降も取り組む。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018年度学生募集要項 ・入試委員会規程 ・入試委員会資料 ・入学受入れ改革ワーキング要項</p>
	<p><視点> 2-1-②アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れの実施とその検証</p> <p>(留意点) □アドミッション・ポリシーに沿って、入学受入れなどを公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用しその検証を行っているか。</p>	<p>・現入試の入学受入れにおいて、アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れとなっているか追跡調査と下記の選抜方法の妥当性の検証を行った。 ①調査書の学習成績概評とGPAの相関関係 ②入試区分による学籍異動との相関関係 ③マイストーリーの記述分量とGPAとの相関関係 ④大学生基礎力レポートの結果とGPAの相関関係 ・大学訪問およびセミナー参加による情報収集を行った。 ・2021年度入学受入れに関して、「2021年度比治山大学入学受入れにおける基本方針について(予告)」をホームページに掲載し、本学の基本方針を外部的に向けて発信した。また2020年度は準備段階の年度であり、新入試に向けての工程表の追加・修正を行い調整した。</p>	<p>・アドミッション・ポリシーの見直しあるいは点検と「学力の3要素」に沿った入試システムの構築が課題である。</p>	<p>・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと関連させながらアドミッション・ポリシーの見直しあるいは点検を各学科に依頼する。また「学力の3要素」(特に主体性・協働性・多様性)をはかるためのシステム構築をおこなっていく。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018年度学生募集要項 ・入試委員会規程 ・入学受入れ改革ワーキング要項 ・入学受入れ改善 工程表 ・選抜方法の妥当性の検証資料</p>
	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>・短期大学部の平成31年度入学定員充足率86%、収容定員充足率84% ・幼児教育科の平成31年度入学定員充足率92%、収容定員充足率90% ・総合生活デザイン学科の平成31年度入学定員充足率73%、収容定員充足率77% ・美術科の平成31年度入学定員充足率97%、収容定員充足率88%</p>	<p>・各学科とも適切な学生受入れ数の維持が困難な状況にある。</p>	<p>・入学定員の確保が厳しい状況について、要因を分析し、入試等での改善など、対策をさらに検討する。</p>	<p>・ホームページ>教育研究活動等の公開>情報の公開>公開する教育情報>入学者数(大学、大学院、短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>短期大学部(在学者数、収容定員、編入学定員、編入学受入れ数) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_tandai.pdf</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	課題	行動計画	
【基準項目】 2-1 学生の受入れ	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【幼児教育科】</p> <p>・幼児教育科の平成31年度入学定員充足率92%、収容定員充足率90%</p>	<p>・入学定員及び収容定員の充足が課題である。</p>	<p>・オープンキャンパスや高校訪問における模擬授業で魅力的な授業を紹介し、学科の魅力をアピールする。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>入学者数(大学、大学院、短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf</p> <p>・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>短期大学部(在学者数、収容定員、編入学定員、編入学者数等) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_tandai.pdf</p>	
	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】</p> <p>・総合生活デザイン学科の平成31年度入定員充足率73%、収容定員充足率77%</p>	<p>・前年度の学科オープンキャンパスでは、午後から体験授業への参加者が午前中の学科全体の時と減り、じっくりと本学科のPRが出来ていないことが課題である。</p>	<p>・次年度オープンキャンパスの学科企画では、「観光」に重点を置く企画を実施する。</p> <p>・オープンキャンパスでの授業は従来の高校生に選ばせるものではなく、参加した高校生に同じ模擬授業を受講してもらい、じっくりとPRする。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>入学者数(大学、大学院、短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf</p> <p>・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>短期大学部(在学者数、収容定員、編入学定員、編入学者数等) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_tandai.pdf</p>	
	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【美術科】</p> <p>・美術科の平成31年度入学定員充足率97%、収容定員充足率88%</p>	<p>・入学定員及び収容定員に沿って在籍学生の適切な確保が課題である。</p>	<p>・平成32年度の教育課程を検討している。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>入学者数(大学、大学院、短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf</p> <p>・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>短期大学部(在学者数、収容定員、編入学定員、編入学者数等) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_tandai.pdf</p> <p>・H30年度入試結果</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-2 学修支援	<p><視点> 2-2-①教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備</p> <p>(留意点) □教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。</p>	<p>・教員と職員はそれぞれの専門性を活かして、学修支援体制の充実を図り、各委員会や合同研修会参加により、方針・計画・実施に関する情報を共有し、教員と職員が協働する体制を整備している。</p> <p>・「学生情報システム(Hi!way)」は、履修登録や掲示情報検索、時間割・成績照会、出欠確認、e-ポートフォリオ機能を持つ「Hi!step」「Hi!check」、e-learningシステム「Hi!space」(LMS)等の機能を整備、職員が運用管理し教員や学生が利活用する体制を取っている。</p> <p>・全教員及び非常勤講師がオフィスアワーを設定し、「学生情報システム(Hi!way)」や掲示により周知し、学修支援を行う体制を整備している。</p> <p>・「学習サポートセンター」や「教職指導センター」を設置し、教職や資格取得希望学生への指導を強化するなど、支援体制を充実させている。</p> <p>・図書館に設置したラーニング・コモンズ(「Me+Library みらいぶらりい」)は、学生による自主的なグループ学習だけでなく、授業にも活用できる体制を取っている。</p> <p>・「学習サポートセンター」や「国際交流センター」主催の講演会を実施による学生への学修支援を行なっている。</p>	<p>・教学委員会は、質的転換加速化本部と連携し、IR委員会、評価委員会、高等教育研究所の活用と運用連携を図り学修支援を進める必要がある。</p> <p>・学修支援に関する方針・計画・実施体制の適切な整備と運営について検討が必要である。</p>	<p>・学修支援については、全学的な連携のもと、引き続き教員・職員合同のワーキンググループを中心に、教員と職員が随時点検を行いながら、一体となった活動を推進する。</p> <p>・学修支援に関する方針・計画・実施体制の適切な整備と運営について、現状の学修支援の取り組みを基に、整備する。</p>	<p>・比治山大学教学委員会規程</p> <p>・比治山大学学習サポートセンター規程</p> <p>・比治山大学教職指導センター規程</p> <p>・履修の手引き</p> <p>・学生便覧</p> <p>・学生情報システム(Hi!way)利用の手引き</p>
	<p><視点> 2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>(留意点) □教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。</p>	<p>・「比治山大学実施要項」を整備し、チューデント・アシスタントの配置を可能としているが、平成30年度は活用していない。</p> <p>・演習科目については技術助手や授業助手等を配置している。</p>	なし	なし	・比治山大学チューデント・アシスタント実施要項
	<p><視点> 2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>(留意点) □中途退学者、休学者及び留年者への対応策を行っているか。</p>	<p>・平成30年度の休学者は在籍者に対して2.4%であり、2%台を維持している。また、退学者は在籍者に対して3.3%であり、平成29年度の0.8%より高くなっている。</p> <p>・休学・退学の諸原因を鑑みて、各学科のチューターが入学当初から面談を行い、早期に発見し解決をはかっている。</p> <p>・留年者に対しチューターやゼミ担当者が定期的な連絡を行っている。</p> <p>・学籍異動の事案については、教員と職員の間で綿密な情報交換を行いながら対応している。</p> <p>・平成30年度からウェルネスセンターに専任の学生相談員1名を置いて、心のケアが必要な学生の相談を受け、休退学や留年を未然に防ぐようにしている。</p>	<p>・専任の学生相談員による平成30年(4月～11月)の相談件数は、平成29年度と比較して大幅に増加し、潜在的にあった需要が顕在化している。これは専任の相談員が常時身近にいるということで、相談件数に増加につながっている。一方で、多忙な相談業務により、心の健康についての啓蒙等の推進活動に本格的に着手できていないことが課題である。</p>	<p>・ウェルネスセンターで、学生相談員の相談業務の見直しを継続する。</p> <p>・平成31年度から非常勤の相談員を1名雇用することを予定している。</p>	<p>・学生便覧(平成30年度版)</p> <p>・教務の基本事項(平成30年度版)</p> <p>・平成26～30年度休退学一覧について(各学部教授会(5月開催)資料)</p> <p>★平成30年度については平成31年5月1日現在。</p> <p>・1・2年次対象面談の通知</p> <p>・ウェルネスセンター学生相談の状況(平成30年4月～平成31年3月)</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 2-3 キャリア支援	<p><視点> 2-3-①教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備</p> <p>(留意点) □ インターンシップなどを含め、キャリア教育のための支援体制を整備しているか。 □ 就職・進学に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。</p>	<p>・ガイダンスの充実を図るために、「Google Forms」を活用した。ガイダンス中に実施したアンケートをリアルタイムで表示することで学生が参加していることを実感できる運営へと改善した。 ・キャリア運営委員会で、各学科のキャリア支援の取組状況を共有し、次年度の取組への参考とした。 ・個別指導を希望する学生が多く、なんでも相談会の利用者が増加した。</p>	<p>・学生の就職活動状況の把握が難しい。 ・就職活動時期の早期化及び長期化の対応が課題である。</p>	<p>・キャリア支援室員(学科担当事務)及び学科のキャリア運営委員が連携し、学生の情報収集を行う。 ・ガイダンスの内容等を見直し、適切な時期に情報を提供する。</p>	<p>・比治山大学キャリアセンター規程 ・平成31年度就職活動支援プログラム ・2019比治山大学キャリア支援講座 ・JOB HUNTING GUIDE2019-2020 ・2019シラバス ・インターンシップ学生一覧 ・2019ひろしまフラワーフェスティバル「ひろえば街が好きになる運動」学生ボランティア ・会社見学バスツアー ・キャリアサポーター募集</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	課題	行動計画	
【基準項目】 2-5 学修環境の 整備	<p><視点> 2-5-①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理</p> <p>(留意点) □教育目的の達成のため、校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、付属施設などの施設設備を適切に整備し、かつ有効に活用しているか。 □施設・設備の安全性(耐震など)を確保しているか。</p>	<p>・教育目的の達成のため、大学設置基準に定める施設として、会議室、事務室、研究室、講義室、演習・実験・実習室、図書館等を整備し、アリーナやトレーニングルーム、グラウンド、テニスコートの施設も備えている。</p> <p>・施設の維持管理は、各法令に規定された点検・検査やトイレ・廊下・階段・講義室・実習室の清掃を行う等、教育環境の管理を行っている。</p> <p>・3号館の改築について、学生が有効に活用できるラーニング・コモンズ等の施設設備の検討を進め、基本設計を行っている。</p> <p>・3号館改築に伴う実習室や研究室の移転先は決定した。</p> <p>・1号館・4号館の改修工事は完了し、8号館機能の移転を行った。</p> <p>・平成31年3月末現、牛田キャンパスの耐震化率は83.2%である。</p>	<p>・新3号館の施設設備計画の策定が課題である。</p>	<p>・引き続き新3号館に整備する教室等の検討を行う。</p> <p>・3号館実習室・研究室の移転先である2号館の改修計画と移転計画を進める。</p> <p>・平成34年度末の牛田キャンパス耐震化率100%達成に向け計画を進める。</p>	<p>・牛田キャンパス施設整備マスタープラン</p> <p>・比治山大学3号館校舎改築関連各種工事スケジュール</p>	
	<p><視点> 2-5-②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>(留意点) □適切な規模の図書館を有しており、かつ、十分な学術情報資料を確保しているか。開館時間を含め図書館を十分に利用できる環境を整備しているか。</p>	<p>・図書館は短期大学部との共用で、ラーニング・コモンズ(愛称Me+Library)を有しており、授業にも利用されている。</p> <p>・所蔵冊数は、平成31(2019)年3月末現在、213,110冊、図書のほか、雑誌、電子ジャーナル、データベース、視聴覚資料、電子書籍等を導入しており、OPAC端末とインターネット端末からの所蔵検索機能を整備し学術情報資料を確保している。</p> <p>・図書館ホームページについては、平成31(2019)年1月にリニューアル公開した。</p> <p>・情報の発信については、「広島県大学共同リポジトリ」(通称HARP)に参加しており、「比治山大学紀要」、「心理相談センター紀要」、「教職課程研究」の論文等をWeb上に公開している。</p> <p>・特別文庫として、資料数2,145点の「三島由紀夫文庫」を設置している。</p> <p>・開館時間は、授業期・試験期共、平日は、8時30分～19時であるが、平成30(2018)年度より、7月の開館時間を延長し、8時30分～19時30分とした。土曜日は、隔週(試験期は毎週)10時～16時である。</p> <p>・学生の図書館利用は活発で、平成30(2018)年度の入館者数109,522名、図書の貸出冊数11,026冊、DVD等視聴覚資料の閲覧件数923件となっている。</p> <p>・自習用パソコンについては、破損が著しい等のトラブルが続出し、補正予算で新システムを導入した。</p>	<p>・学科、コース、カリキュラムの新設・変更に伴い図書が増加し、保存場所が不足している。また、入館者数の増加で居場所がないという図書館の狭隘化がさらに進んでいる。</p> <p>・デジタル化への対応が遅れており、今後は電子書籍やデータベース等のデジタル資料の充実や次世代型OPACの導入を図る必要がある。</p>	<p>・平成31年2月に提出した「図書館調査会」報告書に基づき、可能な限り、設備・備品とデータベースや電子書籍など資料の充実を図る。</p>	<p>・図書館利用ガイドブック</p> <p>・図書館利用ガイドブックミニ</p> <p>・ホームページ>比治山大学図書館 http://www.hijiyama-u.ac.jp/library/index.html</p> <p>・広島県大学共同リポジトリ」(通称HARP) http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hijiyama-u/</p> <p>・平成30年度図書館利用統計</p> <p>・「図書館調査会」報告書</p>	
	<p><視点> 2-5-②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>(留意点) □教育目的の達成のため、コンピュータなどのIT施設を適切に整備しているか。</p>	<p>・図書館の自習端末システムには、Google社のChrome OSを搭載したChromebookを採用し、以前と同じ40端末によるシステム導入を完了(図書館1階)した。3月上旬から運用を開始した。以前の学生印刷枚数管理の機能をそのまま踏襲し、カラー印刷機能が加わっている。また本学で運用中のGSuite(Google社)と緊密に連携しているため、アクティブラーニングを含み今後の運用拡大が期待される。Windows端末の時と異なり、クラウドベースのOffice Onlineを導入し、図書館で作成した文書を他の場所に移動した後も容易に編集できるようになった。</p> <p>・無線LAN工事は、4月第一週までに導入完了を予定している。</p> <p>・ディプロマ・サブプリメントは、機能上の不調を修正している。</p>	<p>・図書館の自習端末システムを全学的に普及するサポートを継続する。</p> <p>・図書館2階の自習端末の更新を行う。</p> <p>・新学期の授業に影響が出ないよう無線LANシステムを完成させる。</p> <p>・ディプロマ・サブプリメントは不調を修正し、4月中に学生入力力が開始できるようにする。</p>	<p>・情システム室より図書館にサポート要員を送る。</p> <p>・図書館2階は従来のWindows端末も混用して学生の利便を図る。</p> <p>・無線LAN導入に続いて、運用効果を実施(サイトサーベイ)し、各アクセスポイントの詳細設定を行う。</p> <p>・ディプロマ・サブプリメントは修正後、再度入力テストを実施し、不調箇所のないことを確認し、全学生による入力を開始する。</p>	<p>・導入した印刷管理システム https://www.printmanagement.jp/feature/</p> <p>・導入した端末 http://www.asus-event.com/pdf/asusjp-brochure-Chromebook_2017autumn.pdf</p> <p>・導入した無線LANシステム https://www.fortinet.co.jp/products/secure-wifi/access-points.html</p> <p>・ディプロマ・サブプリメント入力手順資料</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	課題	行動計画	
【基準項目】 2-6 学生の意見・ 要望への対応	<p><視点> 2-6-①学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生への学修支援に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学修支援の体制改善に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本学ではチューター制を採用しており、入学年次の学生に対しては、「チューターによる面談」を実施し、学修支援に関する学生の意見・要望の把握を行っている。 ・教員全体がそれぞれの学科会議で学生情報を共有し、学修や学生生活へのサポートを行い、学修支援の改善に反映させる体制をとっている。 ・全教員及び非常勤講師がオフィスアワーを設定し、「学生情報システム(Hilway)」や掲示により周知し、学修支援に関する学生の意見・要望の把握を行っている。 ・全ての科目で実施している「学生による授業に関するアンケート調査」や「卒業生アンケート調査」や「共通教育に関するアンケート調査」等の調査を行い、学修支援に対する学生の意見をくみ上げるシステムを整備し調査結果を授業改善や学修支援に反映させている。 ・「学生モニター制度」(年2回)や「AP学生モニター」により、学生の意見の聞き取り調査を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生による授業に関するアンケート調査」や「学生モニター制度」から挙がってくる意見・要望について、対処的な対応が多く、また対応できていない事項がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生による授業に関するアンケート調査」や「学生モニター制度」から挙がってくる意見や要望について、授業や学生生活面での留意点は、FD研修会で報告を行いながら全学的にアナウンスし、また設備や学生サービス等の要望は、優先順位をつけながら学生支援室を中心に各部署において随時、改善等の対応を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比治山大学学習サポートセンター規程 ・学生による授業に関するアンケート調査結果 ・卒業生アンケート調査結果 ・共通教育に関するアンケート調査結果 ・学生モニター制度議事録 	
	<p><視点> 2-6-②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学的には、毎年、新入生アンケート、学生モニター会議および卒業生対象アンケートなどで学生の声を集め、要望を把握し対策を講じている。 ・学友会に関する学生の意見等は、学生支援室が相談を受けてできる限りのサポートをしている。 ・「クラブ活性化支援制度」を利用して課外活動の活性化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の声をいかに多く聴取できるかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動の活性化、特色あるクラブへの支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活性化支援制度 ・新入生アンケート調査結果 ・卒業生アンケート調査結果 ・学生モニター制度議事録 	
	<p><視点> 2-6-②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の心身の健康管理・健康相談に関する問題や保健師・学生相談員らが直接聴取した学生の意見について、ウエルネスセンター運営委員会や学生相談連絡会で検討し、改善策として本年度常勤学生相談員を採用した。 ・非常勤相談員の採用について、平成31年度予算で措置が行われ、採用することになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤相談員を効果的に活用すること。 ・相談記録管理の見直しと学生相談のデータベース化を行うこと。 ・休退学の現状分析と対策を検討すること。 ・教職員相談への対応の体制が不十分であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエルネスセンター長、職員が定期的に検討を行い、ウエルネスセンター運営委員会においても検討をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比治山大学ウエルネスセンター規程 ・比治山大学ウエルネスセンター平成30年度活動報告 	
	<p><視点> 2-6-③学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □施設・設備に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、施設・設備の改善に反映しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学的には、毎年、新入生アンケート、学生モニター会議および卒業生対象アンケートなどで学生の声を集め、要望を把握し対策を講じている。 ・学友会に関する学生の意見等は、学生支援室が相談を受けてできる限りのサポートをしている。 ・学生の安全に配慮して自転車置き場に防犯カメラを設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の声をいかに多く聴取できるかが課題である。 ・学生のアンケートでは食堂に対する不満が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動を活性化する。 ・学生に対する福利厚生を充実させる。 ・学生が考案したメニューの提供など実施し、改善策を検討中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生アンケート調査結果 ・卒業生アンケート調査結果 ・学生モニター制度議事録 	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-1 単位認定、 卒業認定、 修了認定	<p>〈視点〉 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知</p> <p>(留意点) □教育目的を踏まえ、ディプ ロマ・ポリシーを定め、周知し ているか。</p>	<p>【幼児教育科】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョンを踏まえ、短期大学部のディプロマ・ポリシー 策定し、さらに学科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知 している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つ の方針 https://www.hijiyama- u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>
	<p>〈視点〉 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知</p> <p>(留意点) □教育目的を踏まえ、ディプ ロマ・ポリシーを定め、周知し ているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョンを踏まえ、短期大学部のディプロマ・ポリシー 策定し、さらに学科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知 している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つ の方針 https://www.hijiyama- u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧 ・学科作成「5系列の学び」 ・学科パンフレット</p>
	<p>〈視点〉 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知</p> <p>(留意点) □教育目的を踏まえ、ディプ ロマ・ポリシーを定め、周知し ているか。</p>	<p>【美術科】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョンを踏まえ、短期大学部のディプロマ・ポリシー 策定し、さらに学科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知 している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つ の方針 https://www.hijiyama- u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧 ・2019シラバス</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 (学科)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか。</p>	<p>【幼児教育科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度に向けて、学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの見直しを行った。 ・ディプロマポリシーに基づき、汎用的能力を高め、基礎的及び専門的知識と技能を身につけ、保育者として社会に貢献しようとする意欲と態度を身につけるために必要な授業科目を開設し、組織的・体系的で効果的なカリキュラムを編成している。 ・平成31年度シラバスに、ディプロマポリシーとの関連を記載した。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧
	<p><視点> 3-2-②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 (学科)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシーに基づき、必要とする授業科目を開設し、組織的・体系的で効果的なカリキュラムを編成しており、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性は確保されている。 ・平成31年度に向けて、学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの見直しを行った。 ・平成31年度シラバスに、ディプロマポリシーとの関連を記載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性を確保するには、各教員がディプロマ・ポリシーを意識して各授業を行うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシーと関連しているかシラバスを検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧 ・学科パンフレット
	<p><視点> 3-2-②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 (学科)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか。</p>	<p>【美術科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシーに基づき、必要とする授業科目を開設し、組織的・体系的で効果的なカリキュラムを編成しており、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性は確保されている。 ・平成31年度に向けて、学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの見直しを行った。 ・平成31年度シラバスに、ディプロマポリシーとの関連を記載した。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018 学生便覧 ・2019 シラバス

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。(共通教育) □シラバスを適切に整備しているか。 □教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。 □履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。</p>	<p>・ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーに即し、全学共通の共通教育と学科ごとに実施する専門教育によって教育課程を体系的に編成している。 ・カリキュラムマップおよびナンバリングにより教育課程が体系的に編成されていることを明示している。 ・共通教育は、「スタートアップ」「コミュニケーションリテラシー」「キャリア形成」の3分野からなる「比治山ベーシック科目」と「教養科目」からなる全学共通教育カリキュラムを編成している。 ・シラバスには、授業の概要、教育目標との関連、到達目標、評価基準、授業計画、参考書、予習復習の準備を記述し、コア・アクティブラーニング科目群、コア・アクティブラーニングのキーワードの記載により「4×3の比治山力」のどの力が身に付くのか示している。 ・教授方法の改善を進めるために、「学生による授業に関するアンケート調査」や「共通教育に関するアンケート調査」の調査結果を教員にフィードバックしている。 ・「学生モニター制度」(年2回)の結果はFDで報告され、「AP学生モニター」の結果はAPAL可視化部会におけるFD養成講習において結果を報告している。 ・アクティブ・ラーニングに関して、「大学教育再生加速プログラム」事業を継続する中で、質的転換加速化本部と連携しながら、教員研修会での授業実施報告やAP推薦室と連携したAPセミナーの開催、授業改善報告の発行など日常的なFD活動をさらに推進する。 ・学生の主体的な学びを促す学修時間を確保するため、短期大学部全学科が履修登録単位の上限を24単位とし、同時に履修規定を制定した。(資格取得等により一部上限設定を変更する場合あり) ・履修規定により、学生の修学指導として、修得単位数とGPAにより退学勧奨の制度を導入した。</p>	<p>・修得単位数とGPAによる退学勧奨の制度について、GPA算出において、履修取り消し期間が短いことが課題である。</p>	<p>・退学勧奨の制度上で、GPA算出が学期末の成績評価において不利にならないような、履修取り消し期間の検討する。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam ・2018 学生便覧 ・シラバスフォーマット ・学生による授業に関するアンケート調査結果 ・共通教育に関するアンケート調査</p>
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【幼児教育科】 ・幼児教育科は、カリキュラム・ポリシーに即し、幼稚園教諭、保育士の養成のための法令に基づいた教育課程を編成し、実施している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam ・2018 学生便覧</p>
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】 ・総合生活デザイン学科は、カリキュラム・ポリシーに基づき、専門教育科目では多様で幅広い系列を編成し、最新の知識や技能を教授できるカリキュラムを編成し、確実に社会で活躍できる職業人としての必要な知識・技能の定着を図った。</p>	<p>・多様で幅広い系列を編成していることから、カリキュラム・ポリシーに沿った授業を行っているか検証が必要である。</p>	<p>・カリキュラム・ポリシーとシラバスの点検を行う。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam ・2018 学生便覧 ・学科作成「5系列の学び」冊子</p>
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【美術科】 ・カリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程を編成し実施している。1年次では、造形芸術に関する基礎的な知識や技能の修得を、2年次では、各領域の技能・表現性の修得を目的に系統的・段階的に美術の専門的が身につくように教育課程を編成している。また、アクティブ・ラーニングを活用し、課題解決型学修やプレゼンテーションなど各領域の専門科目の授業を通じて、汎用的な能力をも身に付けさせられるよう工夫している。 ・平成31年度シラバスに、ディプロマポリシーとの関連を記載した。また、平成32年度の教育課程を平成30年度末を目標に検討している。</p>	なし	なし	<p>・2019 シラバス</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及 び教授方法	<p><視点> 3-2-④教養教育の実施</p> <p>(留意点) □教養教育を適切に実施しているか。</p>	<p>・共通教育は、本学での学習に必要な基礎的学力、学習方法を習得するとともに、多角的視点から専門領域を超えて問題を探求する態度や意欲を育成するため、「比治山ベーシック科目」と「教養科目」からなる全学共通教育カリキュラムを編成し、適切に実施している。</p> <p>・共通教育の組織体制として、教学委員会内に、「スタートアップ」「キャリア形成」「日本語」「外国語」「情報」の各専門委員会を置き、各担当専門の事項について責任を持った企画・運営を進める体制を構築し、教授方法の工夫・開発と教育課程の編成の見直しを毎年度行っている。日本語・外国語の各専門委員会は年度初めの連絡会において、非常勤講師を含めた授業担当者全員で教授方法の共有化を図り、工夫・開発を組織的に実施する体制を整えている。</p>	<p>・共通教育科目の科目編成や分野構成、履修者数の差などの課題は、共通教育の各専門部会での検討に留まり、教学委員会としての検討ができていない。</p> <p>・平成28年度からの中期計画の「教育改革ビジョン」に基づく重点事業「社会的・職業的自立に関する指導のための教育体制の整備」について、教学委員会としては、その適切な実施体制を踏まえた共通教育の検討にはまだ着手していない。</p>	<p>・共通教育科目のスリム化や科目構成の検証を共通教育の各専門部会と教学委員会が連携して行う。</p> <p>・教養教育の組織の見直しを検討する。</p>	<p>・2018 学生便覧</p>
	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【幼児教育科】</p> <p>・ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーに即し、全学共通の共通教育と学科ごとに実施する専門教育によって教育課程を体系的に編成している。</p> <p>・シラバスは適切に整備している。</p> <p>・「大学教育再生プログラム」の事業推進にともない、アクティブ・ラーニングの実施率は高まっている。アクティブ・ラーニングに関しては、リフレクションシートを用いた振り返りを続けている。</p> <p>・平成31年度より履修登録単位数の上限を設けることとした。</p>	なし	なし	<p>・2018学生便覧</p> <p>・ホームページ>学科・専攻案内>短期大学部>幼児教育科 https://www.hijiyama-u.ac.jp/department/tankidaigaku/yoju_kyoiuku/index.html</p>
	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】</p> <p>・2年次生の学科設定科目「生活チャレンジプログラムⅡ」は通年科目で、ほぼ全員が取り組んだ。ゼミ単位での取り組みであり、地域への貢献が出来た取り組みもあり社会人基礎力の育成になった。</p>	<p>・授業内容が受動型のみで社会参画型でないものがある。</p>	<p>・授業内容に社会参画型を入れていく。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam</p> <p>・2018 学生便覧</p>
	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【美術科】</p> <p>・美術科の特性を生かしながら、情報収集、課題設定、発想、コミュニケーション、創造・表現、プレゼンテーション、自己省察など「4×3の比治山力」に留意したアクティブ・ラーニングを実践している。</p> <p>・学科レッシンスタディを実施し、教授方法の工夫・開発に役立てるよう取り組んでいる。</p> <p>・カリキュラム編成及び、授業内容については、学科内にカリキュラムワーキングを設置し、毎年点検と改善の検討を行い提案を実施している。</p> <p>・基礎実習科目群「基礎造形演習」について、H30年度末を目標に、内容の検証を行った。</p>	<p>・教授方法の工夫・開発と効果的な実施が課題である。</p>	<p>・美術系の他大学の教授方法を参考に、工夫と開発を行う。</p>	<p>・ホームページ>学科・専攻>短期大学部>美術科 https://www.hijiyama-u.ac.jp/department/tankidaigaku/bjutsu/index.html</p> <p>・2018 学生便覧</p> <p>・2018 APレッシンスタディ報告書</p> <p>・2018シラバス</p> <p>・美術系他大学各種資料、写真</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・「大学教育再生加速プログラム」事業においてねらいとする「4×3の比治山力(汎用的能力)」については、本学独自評価指標「比治山力レポート」を用いた評価を行っている。また、専門的能力を可視化する指標としてカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性を図った「比治山型ディプロマ・サブメント」の構築を導入を進めている。</p> <p>・学修状況の点検・評価は、学期末に実施される「学生による授業に関するアンケート調査」の集計結果により、授業内容の点検を行っている。</p> <p>・資格取得状況は、学科ごとに点検・評価し、卒業判定時の教授会で、全学科の免許・資格取得者数を把握している。</p> <p>・学生の意識調査は、チューターによる面談(1年次)や、「学生モニター制度」(年2回)による聞き取り調査を行い、教員研修会で報告を行っている。</p> <p>・就職先へのアンケート調査は、大学教育再生加速プログラム事業に伴い平成26年(20年)から実施し、「4×3の比治山力」(汎用的な力)について企業からの客観的意見の聴取を実施している。</p>	<p>・「卒業生アンケート調査」において、ポリシーを踏まえた学習成果の点検・評価方法を導入したが、その他の複数実施しているアンケート調査を含め全学的に求められている。</p>	<p>・複数実施しているアンケート調査をポリシーを踏まえた学習成果の点検・評価方法に改善していく。</p> <p>・「4×3の比治山力(汎用的能力)」の評価に加え、専門的能力を可視化する指標としてカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性を図った「比治山型ディプロマ・サブメント」の構築を導入を進める。</p>	<p>・「4×3の比治山力」ルーブリック(APワーキング)議事録</p> <p>・学生による授業に関するアンケート調査結果</p> <p>・教授会資料(平成31年3月1日)</p> <p>・平成30年度第1回授業改善学生モニター意見交換会議事録</p> <p>・平成30年度第2回授業改善学生モニター意見交換会議事録</p> <p>・就職先へのアンケート調査</p>
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・昨年度の「卒業生対象アンケート調査」「共通教育に関するアンケート調査」は、集計結果を印刷物にまとめて教職員に配付し、学修における成果と課題を関係部局で検討し、本年度の学修指導や授業環境の改善に役立てた。</p> <p>・現在実施している複数のアンケートのうち、「学生による授業に関するアンケート調査」は前期に一部新方式を試行、後期の試行拡大を行い、来年度に向けて検討中である。</p> <p>・授業改善学生モニター意見交換会報告を教員研修会で実施し、課題を全学で共有した。</p>	<p>・「学生による授業に関するアンケート調査」の新形式の試行結果を踏まえ、次年度からのアンケート形式を決定する必要がある。</p> <p>・授業改善学生モニターの意見交換会報告で共有した課題に対する対応が必要である。</p>	<p>・次年度の実施に向けてアンケートの見直しを行う。</p> <p>・授業改善学生モニターの意見交換会報告で共有した課題に対し、学修指導や業務の改善を行う。</p>	<p>・「平成29年度卒業生対象アンケート調査」結果</p> <p>・「平成29年度共通教育に関するアンケート調査」結果</p> <p>・「平成30年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」実施要項</p> <p>・「平成30年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」配付資料</p> <p>・平成30年度前期・後期「学生による授業に関するアンケート調査」</p>
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・キャリア運営委員会で、各科のキャリア教育の取組を共有した。</p> <p>・2月の会議では次年度の各科の取組を情報交換した。</p> <p>・卒業式で就職状況調査を実施した。</p>	<p>・他学科の優れた取組が取り入れられていない。</p>	<p>・学科を超えて連携し、取り組みを充実させるために、学科主任を中心にとりいれるようなシステムが必要である。</p>	<p>・キャリア運営委員会資料</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>【幼児教育科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修状況の確認、学習過程の記録、学習成果、免許・資格については、学生情報システム(Hi!way)によって可視化される。就職状況の調査に関してはキャリアセンターが行っている。 ・就職先の企業アンケートについては実施していないが、実習巡回訪問において、卒業生の様子についての聞き取りを行っている。 ・学生情報システム(Hi!way)により、汎用的能力及び専門分野に関する成績の推移の経年変化を確認・検証することができる。学生とチューターなどの教員が閲覧でき、コメント欄を利用して双方向のやり取りも可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習巡回訪問時に卒業生の就職状況調査を行っているが、訪問件数に限りがあるので十分な調査には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生と在学生との交流の場を設けることを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Hi!wayシステム ・実習巡回訪問報告書
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生には入学生アンケート実施し、分析を行った。2年生には学科独自の卒業生アンケートの実施・分析をし、DP到達について点検・評価した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生のアンケート結果から、系列・ゼミの選択が学生のニーズに対応できていないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・系列・ゼミの選択が学生のニーズに対応できるよう検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私のライフデザイン ・2018年 学科案内パンフレット ・新入生アンケート及び卒業生アンケート
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>【美術科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修状況(出欠席状況、制作状況)、資格取得状況(中学校教諭二種免許状(美術))、就職状況は、美術科会で常時、点検と確認を行っており、美術科教員が共通認識を持つことができるようにしている。 ・ディプロマ・ポリシー達成のため、学科内で欠席状況について緊密な連絡を行いチューター等による対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシーの外部指標の資格取得状況など点検を行うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー達成のため、学科内で緊密な連絡を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2018美術科会議レジュメ

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>・「大学教育再生加速プログラム」事業においてねらいとする「4×3の比治山力(汎用的能力)」については、本学独自評価指標「比治山力レポート」を用いた評価を行っている。</p> <p>・就職先へのアンケート調査は、大学教育再生加速プログラム事業に伴い平成26年(20年)から実施し、「4×3の比治山力」(汎用的な力)について調査している。</p> <p>・学修状況の点検・評価は、学期末に実施される「学生による授業に関するアンケート調査」の集計結果により、点検評価を行い、教員コメントを作成・公表することで授業改善のために活用している。また、ベネッセ「大学生基礎力レポート」を大学1～4年、短大1～2年生に対して実施している。</p>	<p>・ポリシーを踏まえた学習成果の点検・評価結果を組織的にフィードバックする仕組みの検証が必要である。</p> <p>・「4×3の比治山力(汎用的能力)」に加え、専門的能力を可視化する指標として、「比治山型ディプロマ・サブリメント」の構築の準備を進める必要がある。</p>	<p>・複数実施しているアンケート調査の点検・評価方法をポリシーを踏まえた内容に改善していく。</p> <p>・「4×3の比治山力(汎用的能力)」の評価に加え、専門的能力を可視化する指標としてカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性を図った「比治山型ディプロマ・サブリメント」の構築を導入を進める。</p>	<p>・「4×3の比治山力」ルーブリック(APワーキング)議事録</p> <p>・就職先へのアンケート調査</p> <p>・学生による授業に関するアンケート調査結果</p>	
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>・「学生による授業に関するアンケート調査」は前・後期ともに全科目について実施済みであり、授業内容・方法及び学修指導の改善に生かしている。</p> <p>・昨年度までの課題を踏まえ、新アンケートについては前期において一部の授業で試行し、後期は試行を拡大して実施し、検討を行っている。</p>	<p>・「学生による授業に関するアンケート調査」については、授業内容・方法及び学修指導のより具体的な点検・評価となる新アンケート案の試行を拡大しながら進めているが、決定には至っていない。</p>	<p>・「学生による授業に関するアンケート調査」の新アンケート案の一部試行結果を踏まえアンケート形式について確定し、実施していく。</p>	<p>・「平成30年度前期学生による授業に関するアンケート調査」結果</p> <p>・「平成30年度後期学生による授業に関するアンケート調査」結果</p>	
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>・キャリア運営委員会で卒業式で実施している就職調査を数値化し学科でのフィードバック資料とした。</p> <p>・満足した就職決定先が得られるように、企業研究の機会を多く提供した。</p> <p>・就職支援ガイダンス参加者を増やすため、キャリア運営委員との連携を強化した。</p>	<p>・各学科のキャリア支援の取組状況を全員で検証する。</p>	<p>・より多くの情報を収集するために、内定届を提出する際に、満足度を調査し、具体の改善策を検討する。</p> <p>・就職支援だけでなく、各学科の学びと連携した社会的・職業的自立のために必要な資質能力を向上を促す仕組みを検討していく。</p>	<p>・キャリア運営委員会資料、内定届</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>【幼児教育科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修成果については学務システムにより可視化できる。チューターは担当学生の成績状況を点検し必要な指導を行っている。 ・学修指導の改善については、「学生による授業に関するアンケート調査」の結果を受け、各教員が点検評価を行い、教員コメントを作成、授業改善のために活用している。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・学務システムHi!way「Hi!check」(4×3の比治山力)(成績の推移)(免許・資格) ・学生による授業に関するアンケート調査結果
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生には入学生アンケート、2年生には学科独自の卒業生アンケートを実施した。分析を行い、学科内でのアンケート集計結果の情報を共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は入学生アンケート実施、2年生には学科独自の卒業生アンケートの実施をしたが、その結果を学修指導の改善に活用できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの学科の担当者を決め今後の学修指導に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年学科案内パンフレット ・新入生アンケート及び卒業生アンケート
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>【美術科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レッスンスタディを行い、美術の教育方法について新たな知見を得たり、再認識するための取り組みを行っている。 ・各コースとも、授業課題の制作途中に、しばしば教員からアドバイスをを行い、学修成果(作品)の点検を行っている。 ・各コースとも課題の区切りごとに講評会を実施し、学修成果(作品=成果物)をプレゼンテーション(発表)させることで、自己省察につなげるよう取り組んでいる。また教員による講評では、授業(課題)の目的に照らし合わせ、必要なアドバイスを行うことで、フィードバックとしている。 ・授業(課題)の指導方法については、各領域の担当者が個々に、学生の学修成果の結果を踏まえ、改善やフィードバックを行っている。 ・平成32年度の美術科教育課程を平成30年度末まで完成することを目標として検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく、教育内容・方法及び学修指導の改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを念頭に置きつつ、教育内容・方法及び学修指導の改善しフィードバックしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レッスンスタディ報告書

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-1 教学マネジメントの機能性	<p><視点> 4-1-②権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築</p> <p>(留意点) □大学の意思決定の権限と責任が明確になっているか。 □使命・目的の達成のため、教学マネジメントを構築しているか。 □大学の意思決定及び教学マネジメントが大学の使命・目的に沿って、適切に行われているか。</p>	<p>・教授会は毎月1回開催した。 ・運営戦略本部会議は毎月1回及び臨時に11回開催した。 ・学長及び副学長の所掌を一部変更した。(4月) ・国際担当及びキャリア担当の副学長を廃止するとともに、入試改革を担当する学長補佐1名配置した。(4月) ・大学・短大の教学マネジメントを推進することを目的として、運営戦略本部会議のワーキンググループとして教学マネジメント専門会議を設置した。(3月)</p>	なし	なし	<p>・比治山大学短期大学部学則 ・比治山大学教授会規程(短期大学部) ・比治山大学運営戦略本部規程</p>
	<p><視点> 4-1-③職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性</p> <p>(留意点) □教学マネジメントの遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確化にしているか。</p>	<p>・平成30年度は大学改革推進会議を2回開催した。 ①10月11日:中期計画のローリングについて、働き方改革関連法の概要について、平成30年度広島県人事委員会の給与勧告について ②11月22日:中期計画のローリングの見直し(案)について</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為 ・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程 ・学校法人比治山学園事務等組織規程 ・学校法人比治山学園法人事務局規程 ・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程 ・比治山大学短期大学部学則 ・比治山大学文書事務取扱規程 ・比治山大学決裁規程</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-2. 教員 の配置・職能 開発等	<p><視点> 4-2-①教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置</p> <p>(留意点) □大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置しているか。 □教員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか。</p>	<p>・短期大学部及び学科の教育目的及びカリキュラムに沿った教育活動が十分にできるよう教員組織が整備されている。</p> <p>・教員の採用については、「学校法人比治山学園就業規則(大学等の部)」「比治山大学教員選考規程(短期大学部)」に則り、公募によることを原則とし、学科の改組、教育課程の変更、辞職・定年退職等により必要が生じたときに、採用を行っている。</p> <p>・「比治山大学特別専任教員規程(短期大学部)」、「比治山大学特任教員規程」、「比治山大学契約教員規程(短期大学部)」を制定し、多様な教員任用を考慮している。</p> <p>・教員の昇任は、「比治山大学教員選考規程(短期大学部)」により、職位の資格を定め、教育研究業績を主とし、社会的活動実績、学務実績、勤務年数(教育歴)、年齢等を考慮することとしている。</p> <p>・「教員人事に関する方針」を定め、教員人事(採用・昇任等)について、手続きをより明確にし、これに基づいた採用、昇任が行われている。</p> <p>・教員人事の選考手続きは、「比治山大学短期大学部人事教授会規程」に定め、「人事教授会」の下に「選考委員会」(主査1名委員2名)を設け審査し、審査結果を人事教授会に報告している。</p> <p>・比治山大学教員選考細則(短期大学部)を制定し、教員業績の基準を明確にしている。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園就業規則(大学等の部)</p> <p>・比治山大学教員選考規程(短期大学部)</p> <p>・比治山大学特別専任教員規程(短期大学部)</p> <p>・比治山大学特任教員規程</p> <p>・比治山大学契約教員規程(短期大学部)</p> <p>・比治山大学人事教授会規程(短期大学部)</p> <p>・比治山大学教員選考細則(短期大学部)</p> <p>・教員人事に関する方針</p> <p>・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公開>公表する教育情報>教員組織図</p> <p>http://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/3kyouin_tandai.pdf</p>
	<p><視点> 4-2-②FD(Faculty Development)をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □FD、その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っているか。</p>	<p>・平成30(2018)年度における教員研修会の取り組みについては、全学的な教育課題を踏まえての研修を外部講師・学内担当者により実施した。</p> <p>・9月は「研究活動における不正行為の防止について」「AP(大学教育再生加速プログラム)報告」「学園の財務状況等について」「高大接続を見据えた入試改革」「高等教育の政策を含めた今後の大学改革のあり方」を実施した。</p> <p>・3月は全学で「学生相談の状況について」「平成29年度実施アンケート課題への対応」「平成30年度授業改善学生モニター意見交換会報告」「企業の人材ニーズと大学の人材育成」「AP(大学教育再生加速プログラム)報告」を行うとともに、学科別に「学科における学生指導の報告生と具体的取り組み」を実施した。</p>	<p>・平成30年度(2018)年度のFDの成果と課題をまとめるとともに、教育の教育力向上のため、FD実施の組織を設置することが課題である。</p>	<p>・評価委員会の下に、ファカルティ・ディベロップメント推進部会を置き、FDの推進を行う。</p> <p>・新組織においてこれまでのFDの成果と課題をまとめ、次年度の研修会の時期・回数、内容について検討を行う。</p>	<p>・「平成30年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」実施要項</p> <p>・「平成30年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」配付資料</p> <p>・「平成30年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」実施要項</p> <p>・「平成30年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」配付資料</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 4-3 職員の研修	<p><視点> 4-3-①SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み</p> <p>(留意点) □職員の資質・能力向上のための研修などの組織的な実施とその見直しを行っているか。</p>	<p>・比治山大学・比治山大学短期大学部スタッフデベロップメント基本方針に基づき、2日間の職員研修(教員との合同研修含む)を行った。</p> <p>・外部機関による研修プログラムの利用を企画し、平成31年3月までに44講座に延べ59名が参加した。</p> <p>・平成30年4月より、民間会社が実施する経営支援サービスに入会し、職員がeラーニングにより職場や家庭でいつでも自由に受講できる研修サービスを開始した。</p> <p>・本学の職務に関連する課題について、勤務時間外に行う研修費等の補助を行う、「自己啓発研修費の補助制度」に、平成30年度は、3件の申請があり、3件が採択された。</p>	<p>・外部研修への職員派遣については、現在、所属部署の要請や職員からの自主的の希望に基づき実施しており、本来研修が必要な者が必要な研修を受講する体制となっていない。</p> <p>・成果発表や報告を行う機会がないことが課題である。</p> <p>・自己啓発研修費の補助については、利用者が少ない。</p>	<p>・職員研修制度運営委員等の受講者指名による派遣が行えるよう検討する。</p> <p>・研修成果の定着や効果の最大化のため、研修前後の仕組みづくりの検討を進める。</p> <p>・自己啓発研修費の補助については、規程の改正及び目標面接等で管理者による利用促進を検討する。</p>	<p>・比治山大学・比治山大学短期大学部スタッフデベロップメント基本方針</p> <p>・比治山大学事務職員研修要項</p> <p>・比治山大学事務職員の自己啓発研修費補助に関する内規</p> <p>・平成30年度 比治山大学職員研修実施要領</p> <p>・平成30年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会(教職員合同研修)</p> <p>・メイツ中国2018年度「定額制研修プログラム」参加者リスト</p> <p>・三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社経営支援総合サービス「SQUET」入会申込書、パンフレット</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
	<p><視点> 4-4-①研究環境の整備と適切な運営・管理</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> 快適な研究環境を整備し、有効に活用しているか。</p>	<p>・専任教員の研究室は、個人ごとに確保されている。</p>	なし	なし	<p>・比治山手帳 教員一覧表</p>
【基準項目】 4-4 研究支援	<p><視点> 4-4-②研究倫理の確立と厳正な運用</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> 研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用しているか。</p>	<p>・平成31年3月までに7件(いずれも大学教員)の研究倫理審査の申請があった。6名の短大教員に審査部会(主査・副査)を委嘱し、研究倫理への意識を高めた。 ・平成30年9月のFD教員研修会で「研究倫理教育講習会」を行った。欠席者には別途、資料配付、説明を行った。 ・2月初旬e-learning未受講者に対し、教授会で受講を促した。</p>	<p>・e-learningでの研究倫理教育受講を促すことでは、全員に徹底が難しい。</p>	<p>・2019年9月のFD教員研修会においてプログラムの1つとして研究倫理教育を行う。 ・4月の新任者研修で研究倫理教育について資料を配付し、e-learningの受講を促す。</p>	<p>・平成30年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会</p>
	<p><視点> 4-4-③研究活動への資源の配分</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> 研究活動への資源配分に関する規則を整備し、設備などの物的支援とRA(Research Assistant)などの人的支援を行っているか。 <input type="checkbox"/> 研究活動のための外部資金の導入の努力を行っているか。</p>	<p>・「研究奨励費」に申請のあった教員1名について、科研費審査結果に基づき、「研究奨励費」を交付した。 ・平成30年度の科研費に3件の申請を行い、うち1件が採択された。 ・平成31年度の科研費に3件の申請を11月に行ったが採択には至らなかった。 ・平成31年度の外部助成金に1件を申請を行ったが採択には至らなかった。</p>	<p>・日本学術新振興会主催の科研費公募説明会の際、「科研費に応募させることを目的化しようようなことは望ましくない」との説明があったことを受け、本学の「研究奨励費」について見直しの必要がある。</p>	<p>・「研究費規程 研究奨励費」の見直しを行う。 ・科研費応募への意欲喚起の方策を検討する。</p>	<p>・平成30年度交付決定一覧 ・平成31年度内定一覧</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 5-1 経営の規律 と誠実性	<p><視点> 5-1-②使命・目的の実現への 継続的努力</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>使命・目的を実現するた めに継続的な努力をしてい るか。</p>	<p>・学校法人比治山学園寄附行為に掲げている目的に沿って策定した比治山学園中期計 画(平成28年度から平成33年度までの6年間)に従って平成30年度の事業計画を実施し ている。 ・平成30年度は中期計画の前期3年間の終了年のため、後期3年間に向けて、中期計画 の進捗状況を確認し、見直し作業を行った。 ・事業計画と予算について、中間報告を受け、執行状況を把握している。 ・補助金等外部資金獲得への取り組み、経費削減への取り組みなどの対応や予算の執 行状況についても報告を徴取し、実施状況を確認している。 ・理事会・評議員会、経営戦略会議、大学改革推進会議、運営戦略本部会議、教授会等 の主要会議は議事録を作成し、審議経緯と結果を適切に管理している。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為 ・比治山学園中期計画(平成28年度 から平成33年度まで) ・平成30年度事業計画の進捗状況 (平成30年11月末現在)※平成30年 度事業計画の報告は令和元年5月 ・主要会議議事録</p>
【基準項目】 5-2 理事会の機 能	<p><視点> 5-2-①使命・目的の達成に向 けて意思決定ができる体制の 整備とその機能性</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>使命・目的の達成に向け て意思決定ができる体制を整備 し、適切に機能しているか。 <input type="checkbox"/>理事の選任及び事業計画 の確実な執行など理事会の 運営は適切に行われている か。 <input type="checkbox"/>理事の出席状況及び欠席 時の委任状は適切か。</p>	<p>・「経営戦略会議」や「大学改革推進会議」を設置し、理事会において学園及び各設置校 の重要事項について機動的・戦略的に意思決定ができる体制を構築している。 ・理事会機能の活性化を図るため理事研修会を継続して行っている。平成30年度は外部 講師により2回・内部講師により1回の計3回実施した。 ・理事・評議員に配付している「理事・評議員必携」について、学校関係事項の新しい動き 等の説明や教育及び会計用語集に用語を付け加える等内容の充実を図り、資料編につ いても平成30年度の内容に更新し配付した。 ・理事会は法令及び寄附行為に基づき適切に運営されている。平成30年度は7回開催 し、理事の出席状況は実出席率93.7%と適切である。 ・理事の欠席時に意思表示を行う書面に、議案に対する賛否の意思表示のための意見 欄を設けている。更には、理事会開催前には専務理事が外部理事に議案の説明をしてお り、円滑な意思決定ができている。 ・理事は、寄附行為に基づき適切に選任されている。 ・事業計画について、平成30年度は中期計画の見直しの関係で進捗状況は年1回確認 し、必要な修正を加えた。 ・理事会は、理事長等に事務委任したもの以外の学校法人の業務を決定するとともに、学 長や校長から事業の進捗状況について報告を求め、引き続き状況をチェックし、意見を述 べる等、理事の職務の執行も監督している。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園経営戦略会 議設置規程 ・学校法人比治山学園寄附行為 ・比治山学園中期計画(平成28年度 から平成33年度まで) ・平成30年度事業計画の進捗状況 (平成30年11月末現在)※平成30年 度事業計画の報告は令和元年5月 ・理事研修会開催状況 ・学校法人比治山学園理事会議事 録 ・平成30年度理事会・評議員会の開 催状況 ・理事会等出欠はがき ・理事・評議員必携</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 5-3 管理運営の 円滑化と相互 チェック	<p><視点> 5-3-①法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化</p> <p>(留意点) □意思決定において、法人及び大学の各管理運営機関の意思疎通と連携を適切に行っているか。 □理事長がリーダーシップを発揮できる内部統制環境を整備しているか。</p>	<p>・「経営戦略会議」を概ね1～2か月に1回開催し、経営や教学に関する重要事項について協議している。</p> <p>・「経営戦略会議」の中に、「大学改革推進会議」を設置し、非常勤理事も加え、重要事項について各部門が連携して協議する体制となっている。</p> <p>・大学事務局長は法人事務局長の次長を兼務し、専務理事兼法人事務局長は、大学の各部門の事務責任者で構成する室長会議に参画する等、実務レベルでの意思疎通と連携を図っている。</p> <p>・理事会で審議される事項は、事前に必ず「経営戦略会議」において検討・協議され、議案の調整・決定を行っている。「経営戦略会議」には各設置校の役職者が出席し相互チェックと連携が働いている。</p> <p>・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程を定め、理事長に権限を委任するとともに、学校法人比治山学園法人事務局処務規程により理事長決裁を明確にし、理事長に権限を集中的に付与している。</p> <p>・理事長がリーダーシップを発揮できるよう、学園内外の情報は日頃から報告・説明を行っている。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為</p> <p>・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程</p> <p>・平成30年度理事会・評議員会開催状況</p> <p>・比治山学園事務組織規程</p> <p>・比治山学園組織図</p> <p>・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程</p> <p>・学校法人比治山学園法人事務局処務規程</p> <p>・比治山大学文書事務取扱規程</p>
	<p><視点> 5-3-②法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性</p> <p>(留意点) □法人及び大学の各管理運営機関が相互チェックする体制を整備し、適切に機能しているか。 □監事の選任は適切に行われているか。 □監事は、理事会及び評議員会などへの出席状況は適切か。 □監事は、理事会及び評議員会などへ出席し、学校法人の業務又は財産の状況について意見を述べているか。 □評議員の選任及び評議員会の運営は適切に行われているか。 □評議員の評議員会への出席状況は適切か。 □教職員の提案などをくみ上げる仕組みを整備しているか。</p>	<p>・法人と大学の業務処理は、起案決裁により業務執行の手続きを行っている。特に重要な案件は相互に合議され、相互に動向を把握し、チェックしている。最終の意思決定を行うまでに複数の協議体で議論、検討がなされているため相互機能のチェック体制は整備されている。</p> <p>・監事は、寄附行為に基づき、適切に選任している。</p> <p>・監事は、理事会及び評議員会に毎回出席し、法人の業務や財産の状況を把握し、必要に応じて意見を述べている。平成30年度の理事会及び評議員会への実出席率は、理事会100%、評議員会100%と良好である。</p> <p>・評議員会は、25人の評議員(定数20～25)で構成し、理事定数7～9人の2倍を上回っている。</p> <p>・評議員は寄附行為に基づき適切に選任している。</p> <p>・評議員会は、理事会の諮問機関として、適切に運営している。平成30年度は、臨時評議員会を含め5回開催し、寄附行為に定められた事項はもとより、学園の業務に関する重要な事項についてあらかじめ意見を聞いている。また、その都度学園の状況について報告をしている。</p> <p>・11月からは、役員に行っていたメールでの情報提供を希望する評議員にも開始した。</p> <p>・平成30年度の評議員会への評議員の実出席率は70.4%である。</p> <p>・教職員の提案をくみ上げる仕組みとしては「事務職員提案実施要綱」を制定している。その他、意思形成を行うまでの各種会議に構成員として参画している。</p>	<p>・評議員の恒常的欠席者が課題である。</p>	<p>・出席を働きかける。</p>	<p>・学校法人比治山学園寄附行為</p> <p>・平成30年度理事会・評議員会開催状況</p> <p>・学校法人比治山学園理事会議事録</p> <p>・学校法人比治山学園評議員会議事録</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 5-4 財務基盤と 収支	<p><視点> 5-4-①中長期的な計画に基づき適切な財務運営の確立</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>中長期的な計画に基づく財務運営を行っているか。</p>	<p>・平成29年10月18日の理事会で承認された「中期財政計画の見直し」を、29年度決算値及び30年度学納金収入予測を反映して見直しを行い、平成30年10月26日の理事会で承認された。この見直しされた中長期計画に基づき現在財務運営が行われている。</p> <p>・現在中期計画(平成28年～平成33年)のうち後半部分(平成31年～平成33年)の見直しが行われているが、これと並行して平成31年度の予算ヒアリングを各学科・事務局と行った。平成31年度予算ヒアリングでは、特に重点事業に関して、事務局においては中期計画見直しとの整合性、また学科においてはディプロマポリシー・カリキュラムポリシーとの整合性、教育の質保証の担保等にポイントを置いてヒアリングを行った。</p> <p>・平成31年3月25日の評議員会・理事会に平成31年度予算案を提出した。</p>	<p>・学納金収入の減少と働き方改革による、人件費の増加が課題である。</p>	<p>・財務シミュレーションの策定と周知方法を検討する。</p>	<p>・平成30年度予算 資金収支計算書 ・事業活動収支計算書</p>
【基準項目】 5-5 会計	<p><視点> 5-5-①会計処理の適正な実施</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>学校法人会計基準や経理に関する規則などに基づく会計処理を適正に実施しているか。 <input type="checkbox"/>予算と著しくかい離がある決算額の科目について、補正予算を編成しているか。</p>	<p>・学校法人会計基準・比治山学園経理規程に則して会計処理を行っている。また実務的に対応できない財務案件については適宜私学事業団・公認会計士にアドバイスを仰いでいる。</p> <p>・補正予算については第3回目の補正予算案が12月14日の理事会で承認された。</p> <p>・予算執行状況について10月26日の理事会で中間報告を行った。</p> <p>・現在施設担当で4号館改修工事関係支出の総括表を作成中である。完成した時点で財務・施設・会計士で勘定科目・1号基本金組入額・2号基本金取崩額について確認する。</p> <p>・平成31年3月25日の評議員会・理事会に平成30年度補正予算案(第4回目)を提出した。</p>	<p>・4号館改修工事については当初320百万円の2号基本金を設定していたが、実際の工事支出は220百万円程度と予測されるため差額の100百万円の取り扱いについて財務・施設・会計士で確認する。</p> <p>・平成30年度決算時に30年度補正予算(4回目)との主な差異分析を行う。</p>	<p>・平成31年4月の会計士往査時に確認を予定している。</p> <p>・平成30年度決算時に30年度補正予算(4回目)との主な差異分析の結果を次回予算策定時の精度向上に役立てる。</p>	<p>・平成30年度決算 資金収支計算書 ・事業活動収支計算書</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準6. 内部質保証

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 6-1 内部質保証 の組織体制	<p><視点> 6-1-①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立</p> <p><留意点> <input type="checkbox"/>内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/>内部質保証のための責任体制が明確になっているか。</p>	<p>・内部質保証のための責任体制として、学長を本部長とする「運営戦略本部」を設置している。</p> <p>・内部質保証の恒常的な組織体制として、「運営戦略本部」の下に評価委員会を置き、大学評価を指揮・管理し、日本高等教育評価機構の評価基準を参考にして、報告書案を作成するとともに、学生による授業評価、教職員研修等を行っている。</p> <p>・評価委員会には「大学部会(大学院含む)」「短大部会」「事務部会(法人事務局含む)」を置き、自己点検・評価を行い、年度ごとに自己点検評価書を作成し、執行部会、運営戦略本部、教授会に報告し、ホームページ等で公表している。</p>	<p>・内部質保証を恒常的に維持するためのIR委員会の支援を強化する必要がある。</p>	<p>・IR機能を見直し、内部質保証のために必要かつ十分に機能させる体制を構築する。</p>	<p>・比治山大学点検・評価規程 ・IR委員会規程</p>	
	<p><視点> 6-1-①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立</p> <p><留意点> <input type="checkbox"/>内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/>内部質保証のための責任体制が明確になっているか。</p>	<p>・運営戦略本部会議の構成員から図書館長、学長補佐、学科主任を外し、学部長、短大部長を各組織の教学運営の中心と位置付けて、効率的な意思決定を行った。</p> <p>・この結果、月1回の定例会のほか、計11回の臨時会を開催し、大学及び短大の将来構想の検討や学園中期計画の見直しなどの課題に機動的に対応できた。</p>	なし	なし	<p>・比治山大学短期大学部学則 ・平成30年度比治山大学・比治山大学短期大学部の学長補佐体制について ・比治山大学・比治山大学短期大学部学長補佐選考内規 ・比治山大学運営戦略本部規程</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準6. 内部質保証

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
	<p><視点> 6-2-①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有</p> <p>(留意点) □内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価をどのように行っているか。 □エビデンスに基づく、自己点検・評価を定期的に行っているか。</p>	<p>・昨年度より、日本高等評価機構の新しい基準による自己点検・評価を実施し、「現状」「進捗度」「課題」「改善方策」とともに「根拠資料」を明記することしたが、再度本年度実施に向け全教職員により正確な評価となるよう周知した。</p> <p>・PDCAサイクルの確実な実施を目指して、中間報告と最終報告を作成している。</p> <p>・年度計画を大学独自の基準に位置づけて報告書を作成している。</p>	<p>・エビデンスに基づいた自己点検評価報告となっているか実施状況を確認する必要がある。</p> <p>・来年度より、日本高等評価機構の新しい基準を全て踏まえた自己点検評価を実施することになっているため、その準備を進める必要がある。</p>	<p>・来年度より、日本高等評価機構の新しい基準を全て踏まえた自己点検評価を実施し、課題の抽出とエビデンスとの確認をおこなう。</p>	<p>・大学 平成30年度自己点検評価書作成依頼に関する資料 ①平成30年度自己点検評価書 中間・最終報告報告 様式 ②平成30年度自己点検評価担当表 ③平成30年度基礎資料作成担当表</p>	
<p>【基準項目】 6-2 内部質保証のための自己点検・評価</p>	<p><視点> 6-2-②IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析</p> <p>(留意点) □現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行える体制を整備しているか。</p>	<p>・ディプロマ・ポリシーの効果測定のためのデータ収集、分析(学生の学修成果(学修時間、満足度、学修意欲等))に取り組んだ。主な分析は4×3の比治山力(汎用的能力)と外部指標との関連性(APとの協同)について調査、入学後の学修成果向上の要因について、1・2年次のGPAの伸び幅をもとに学生の属性(性別、出身校、学修時間、満足度等)調査を進めている。</p> <p>・インスティテューショナル・リサーチ委員会で入試・教学・キャリア等の分析結果を月次報告した。</p> <p>・ファクトブック(年次報告書)更新を行い、追加項目(学生の資格取得状況等の学修成果の情報収集)に着手した。</p> <p>・職員育成は大学IR関係の講演出席、職員間で分析意見交換のための座談会を実施した。</p> <p>・授業アンケート、卒業時アンケート質問紙の見直しに着手した。</p> <p>・成果の公表として「比治山大学紀要」に「比治山大学・比治山大学短期大学部におけるインスティテューショナル・リサーチの現状と課題」を投稿した。</p> <p>・組織体制の見直しを行い、平成31年度は委員に専門教員を1名加え評価委員会副委員長2名を顧問とする。</p>	<p>・三つのポリシーの効果測定のためのデータ収集、分析(学生の学修成果(学修時間、成長実感、満足度、学修行動、学修意欲等))の構築、各種学生アンケート調査結果の活用、分析結果の蓄積、分析結果に基づく政策の提言が課題である。</p>	<p>・三つのポリシーの効果測定のためのデータ収集、分析(学生の学修成果(学修時間、成長実感、満足度、学修行動、学修意欲等))の構築のため、各種アンケートデータやGPA、資格取得状況等のデータを活用して、学生の学修時間・成長実感・満足度・学修への意欲等を調査を行う。また、AP事業と連携し「4×3の比治山カレポート」(汎用的能力の学生自己評価アンケート)とベネッセ基礎カレポートⅡ(汎用的能力外部指標)との相関を調査を行う。</p> <p>・組織体制を強化する。</p>	<p>・比治山大学インスティテューショナル・リサーチ委員会規程 ・研修会報告書 ・IR委員会議事録 ・比治山大学紀要第 25号</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準6. 内部質保証

比治山大学短期大学部

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 6-3 内部質保証 の機能性	<p><視点> 6-3-①内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性</p> <p>(留意点) □ 三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているか。 □ 自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果の活用により、中長期的な計画を踏まえた大学運営の改善・向上を図るなど、内部質保証の仕組みが機能しているか。</p>	<p>・学科・コースごとに、ディプロマ・ポリシーの達成状況を指標化し把握するために、平成30年度についてその成果指標として関連する検定や外部試験等を決め到達レベルを設定した。</p> <p>・学科・コースに対して、質の高い教育活動を保証し、また、ディプロマ・ポリシーの効率的な達成を図るために、平成32年度のカリキュラム編成方針を策定し、見直すよう依頼した。</p> <p>・高等教育評価機構の新評価基準に基づく自己点検評価については、評価委員会が学部・学科、センター、委員会等の組織体による自己点検・評価を集約し、中間評価を行い、年度ごとに自己点検評価書まとめ、執行部会、運営戦略本部、教授会等に報告するとともに、ホームページ等で公表している。</p> <p>・中期計画の自己点検・評価については、9月と翌年1月に、部局単位で中間評価を行い、その結果を「主要事業計画進捗状況」として集約して執行部会、運営戦略本部、教授会、経営戦略会、理事会等に報告している。また、その報告内容は次年度の予算編成のための資料としている。</p> <p>・新入生アンケート、卒業生アンケート等の自由記述に注目し、学生の具体的な要望を運営戦略本部会議で仕分けし、関連部署に検討を依頼した。</p>	<p>・各部署でのPDCAサイクルの遂行が不十分である。</p> <p>・学科・コースごとに、ディプロマ・ポリシーの達成状況を指標化した平成30年度の成果指標(検定や外部試験等)の結果について検討し、改善点を探る。</p>	<p>・内部質保証を意識した大学全体のPDCAサイクルの遂行を学内各部署に浸透させる。</p> <p>・質の高い教育活動を保証し、また、ディプロマ・ポリシーの効率的な達成を図るために、学科・コースの平成32年度のカリキュラム編成の見直しを行う。</p>	<p>・各学科におけるディプロマ・ポリシーの達成のための計画策定について(運営戦略本部会議H29.06.23)</p> <p>・平成30年度 主要事業計画進捗状況</p> <p>・平成32年度カリキュラム編成方針(運営戦略本部会議H31.02.14)</p>
	<p><視点> 6-3-①内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性</p> <p>(留意点) □ 三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているか。 □ 自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果の活用により、中長期的な計画を踏まえた大学運営の改善・向上を図るなど、内部質保証の仕組みが機能しているか。</p>	<p>・「比治山学園中期計画」(平成28年度～平成33年度)の前半が終了することから、学園全体で見直しを行うこととし、短大においてもビジョン・戦略・重点事業を見直し、12月の理事会で見直し案を決定した。(平成31年2月の評議員会・理事会で見直し案を承認予定)</p> <p>・平成29年度の重点事業の実施結果は5月の理事会・評議員会において報告するとともに、11月末現在の進捗状況についても平成31年2月の理事会・評議員会で報告している。</p> <p>・平成30年度予算編成から、中期計画の前年度実施結果及び当該年度の進捗状況を検証し申請内容に反映させている。</p> <p>・監事が年2回行う業務監査(5月、10月)においても上記の実施結果や進捗状況について説明し、質疑の結果を事業実施に反映している。</p>	<p>・平成30年6月27日の第1回評価委員会において、自己点検評価書の作成スケジュールを変更し、平成30年度から中期計画の進捗状況報告及び事業報告に連動して評価書を作成することとした。</p>	なし	<p>・比治山学園中期計画(大学・短期大学部)</p> <p>・平成29年度事業報告書(大学・短期大学部)(理事会資料)</p> <p>・平成31年度予算編成方針(大学・短期大学部及び幼稚園)</p> <p>・平成29年度決算に係る業務監査について(通知)(平成30年4月12日)</p> <p>・平成30年度監査計画</p>

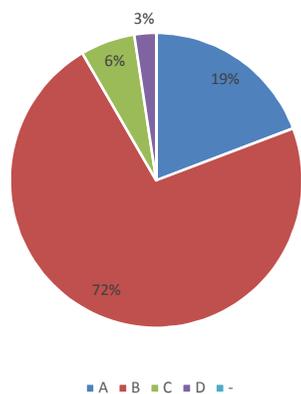
独自基準 比治山大学・比治山大学短期大学部 中期計画(平成28年度から平成33年度)に基づく平成30年度事業計画進捗状況について

中期計画(平成28年度から平成33年度)を策定するにあたり、本学の「建学の精神」をあらためて振り返り「ミッション」を再定義し、6年先までにありたい姿としての「ビジョン」を明確にした。ビジョンは大学、短大全体ビジョンと個別の5ビジョンを設定し、ビジョン実現のために22の主要事業と、これに紐づく具体的な重点施策である「重点計画」で構成している。各年度の事業計画は、基本的にこの「重点計画」を実施するものである。

平成30年度事業計画の進捗状況についてビジョンごとに以下のとおり点検した。

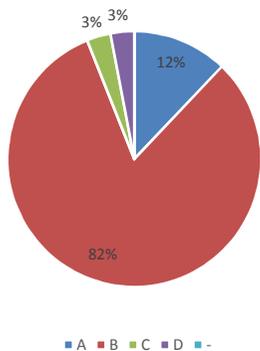
主 要 事 業	各事業の進捗度 (H30.11現在)				
	A	B	C	D	-
1 教育改革ビジョン					
(教学)					
1 大学教育再生加速プログラムの継続			4		
2 学生満足度向上		2	1		
3 高一大一社会の接続事業			2	1	
4 「4×3の比治山力」を支えるための基礎を構築		1			
5 外国語関係科目の授業者に対してアクティブ・ラーニングの授業形態等の研修		1			
6 大学を取り巻く様々な課題への取り組みと卓越した教育の推進			2		1
(キャリアガイダンス・支援)			8		
7 学生の主体的キャリアビジョン育成システム					
(学生支援)			2		
8 主体的な学びの意欲と強靱な心身の育成					
9 「Me+Library」を含む図書館の充実			4		
(入試広報)			4		
10 広島県内外のみならず世界から、優秀で志の高い入学生の確保					
教育改革ビジョン計	4	27	1	1	0
2 研究活性化ビジョン					
11 各教員個々の教育研究力向上と研究成果レベル向上、研究活動成果発信の体制整備及び研究推進支援の充実			2		
3 地域貢献ビジョン					
12 大学諸活動の「見える化」推進による地域のニーズへの対応と学科の特性に応じ学生参加型地域貢献・連携活動の推進			4		
4 国際化ビジョン					
13 国際化5戦略(①海外留学促進②留学生受入促進③教職員国際化支援④地域グローバル化対応⑤グローバル人材養成)と国際交流センターの整備	7	8	3		
14 海外研修プログラムの体系的整備	2	4			
国際化ビジョン計	9	12	3	0	0
5 基盤整備ビジョン					
(大学教育の質保証)					
15 事務組織体制の構築と人事考課制度の実効性確保			1	1	1
16 コンプライアンス、PDCAの実効性強化及びIR委員会機能の充実と確立			4		
17 収入定員確保のための教育組織の見直し			2		
(施設整備・環境整備計画)			2		
18 教育内容等に対応した施設整備、学生視点を重視したキャンパスや利便性の向上、学生生活を支えるための施設整備の充実					
19 情報通信技術を活かした教育環境の整備、情報セキュリティ確保、機器更新、情報センター組織の確立			4		
(情報公開とアカウントビリティ)		1	1		
20 大学情報公開の活性化と広報戦略の確立					
(財政基盤の安定と機動的意決定)		1	1		
21 学納金収入確保と外部資金の積極的導入による大学経営基盤の安定					
22 経営ガバナンスにおける大学、短期大学のマネジメント体制の確立と業務執行管理体制の強化と機動的意決定のための運営体制の構築	1				
基盤整備ビジョン計	3	15	1	1	0
総計	16	60	5	2	0

事業計画全体進捗状況

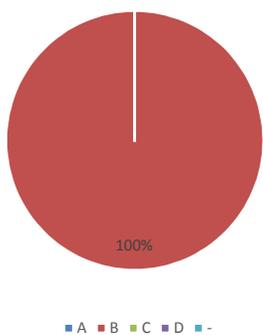


事業計画全体としては、A評価19%、B評価72%であり、90%以上の事業が完了または予定通りの進捗となっている。遅れている事業としてC評価6%、未着手D評価3%があり、全体で9%の事業が遅れている。国際化ビジョンにおける事業の遅れと、教育改革ビジョン及び基盤整備ビジョンの未着手の事業は見直しの必要がある。6年間の中期計画の後期に入る平成31年度に向けて、平成30年度に中間計画の見直しとして、事業の統合や実施計画の修正を行った。引き続き中期計画の目標達成のために平成31年度事業計画から取り組みを始める。

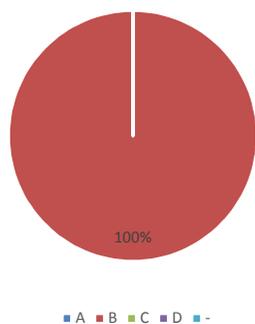
1 教育改革ビジョン



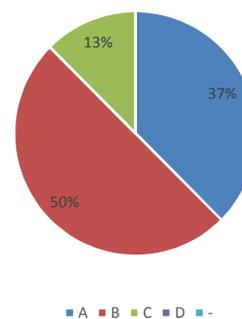
2 研究活性化ビジョン



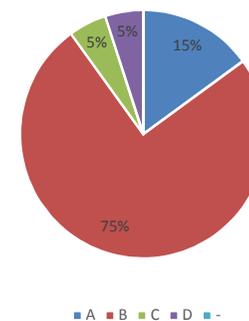
3 地域貢献ビジョン



4 国際化ビジョン



5 基盤整備ビジョン



平成 30 年度 自己点検評価書

発行日	令和元年 8 月
編集・発行	比治山大学短期大学部 広島市東区牛田新町四丁目 1 - 1 電話：082-229-0121 FAX：082-229-5100